

2013年
7月から

タバココナジラミ類 発生 急増

トマト きゅうりのウイルス病 まん延防止にご協力をお願いします

深谷市北西部において、屋外の黄色粘着板に捕殺されたタバココナジラミ類の数が、平成25年7月から増加しています(大里農林振興センター調べ)。



写真 タバココナジラミ類
(体長0.8~1.2mm)

7月中旬定植の抑制トマト栽培において、タバココナジラミが媒介する「トマト黄化葉巻病」の発生が多く見られます。

タバココナジラミ類は、「トマト黄化葉巻病」、「キュウリ退緑黄化病」の病原ウイルスを媒介することがあります。いずれの病気も感染すると収量が減少し、施設野菜生産者に深刻な被害を与えます。

まん延防止のためには伝染源(感染した植物)を断つことと病気を媒介するタバココナジラミ類を防除することが大切です。

このため施設野菜生産者だけでなく、感染した植物を放置しないなど地域ぐるみの取り組みが必要ですので、皆様の協力をお願いします。

地域の皆様に気をつけていただきたいこと

- 1 発病株(写真は裏面に掲載)は見つけ次第抜き取り、ビニール袋等に入れて、完全に枯れるまで密閉処理してから処分する。
- 2 栽培終了後はすぐに片づけを行い、ほ場に放置しない。
- 3 ハウス栽培の場合は、栽培終了後はハウスの蒸込みを行いハウス内の虫を死滅させる。
- 4 野良生えトマトや雑草はコナジラミ類の発生源となるのでほ場の内外で繁茂させない。

裏面へ続く

トマト黄化葉巻病

病徴

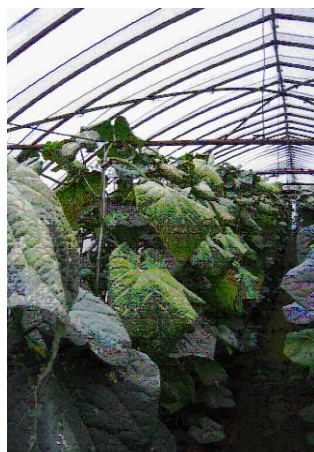
- ・はじめは新葉が葉縁から退色しながら葉巻症状となる。
- ・その後、葉は表側に巻き、葉脈間が黄化萎縮する。
- ・さらに病勢が進行すると、葉はちりめん状となり、頂部が叢生（そうせい）し、株全体が萎縮する。萎縮したわき芽を多数生じる。
- ・発病後は開花しても結実せず、また、発病前に着果した果実は小玉傾向となり大きく減収する。



キュウリ退緑黄化病

病徴

- ・葉に退緑小斑点を生じ、その後、斑点が拡大、黄化葉となる。
- ・やがて葉縁が下側に巻き、草勢が低下し収量が減少する。



- ・病徴を生じる葉は、中段の葉から上位方向に進展し、下位方向への進展や異なる葉位で同時に黄化することはない。発病時期が早いほど果実の収量や品質に影響をおよぼす。
- ・感染の確認が報告されている作物は、メロン、キュウリ、スイカである。

お問い合わせ先

大里農林振興センター 農業支援部 技術普及担当

☎ 048-526-2210

* 病徴カラー画像は、大里農林振興センターHPでご覧になれます。